

2014/11/17

第8回日本アミノ酸学会学術大会でコラーゲンペプチドの機能性研究成果を発表

2014年11月8日、9日に開催された第8回日本アミノ酸学会学術大会でコラーゲンペプチドの機能性研究成果3演題を発表しました。

1) コラーゲンペプチド摂取によるヒト筋肉への効果

当社研究員による発表

コラーゲンペプチド摂取によるヒトの筋肉への効果を検討するため、臨床試験を行いました。1日あたり5gを10週間連続摂取し、4, 8, 10週後の体組成計による筋肉率とロコモティブシンドロームの指標である2ステップ値を測定し、摂取開始前と比較しました。また、摂取中止後8週間空けて再測定を行いました。

その結果、筋肉率および2ステップ値は、摂取期間中は有意に上昇しましたが、摂取中止により元に戻りました。以上の結果から、弊社製コラーゲンペプチドの連続摂取の筋肉への有効性が示唆されました。

2) コラーゲンペプチドの表皮角化細胞への効果

当社研究員による発表

コラーゲンペプチドの摂取によって皮膚への保湿性を改善することが報告されています。本研究では、弊社製コラーゲンペプチドの表皮角化細胞への効果を各種遺伝子発現レベルで調べました。

その結果、保湿性に寄与する遺伝子、表皮の代謝に関与する遺伝子及び皮膚バリア機能に寄与する遺伝子の発現が亢進したことから、弊社製コラーゲンペプチドは、保湿性とキメ、皮膚バリア機能を向上させる可能性が示唆されました。

3) 膚創傷回復時におけるコラーゲンペプチド代謝物の効果

宇都宮大学・農学部グループによる共同研究成果の発表

コラーゲンペプチド代謝物の皮膚創傷回復への効果を調べる目的で、各種ペプチドを皮膚創傷モデルマウスに腹腔内投与しました。

その結果、特にPro-Hyp(アミノ酸のプロリンとヒドロキシプロリンが結合したジペプチド)は創傷皮膚部位でコラーゲン合成を促進させたことから、Pro-Hypが創傷治癒促進因子である可能性が示唆されました。